媒体名	月刊「健康と医療」 （健康医療ジャーナル）	掲載日	2008年6月6日
タイトル	特集「クローズアップ医療」		

フランス発メタボ用医療食

製薬大手メルクが販売

今年4月からスタートしたメタボリックシンドローム特定健診・特定保健指導制度。消費者のメタボリックシンドロームに対しての認知は日々向上し、消費者レベルでのニーズも高まっている。しかし、健診でメタボと診断されても、それに対してこれまで行なわれてきた、既存の保健指導で対象者が食事内容を見直したり、運動を始めるかというと、専門家でも首をかしげる。診断はされても、それに対する対応策がないのが、メタボリックシンドロームともいえる。

国家がメタボ対応サプリメント認める

クローズアップ医療

今年4月から、公的な健康保険に加入している被保険者は全て、メタボリックシンドローム特定健診を受けて、保健指導を受ける。保健指導の内容は、食事指導と運動指導だ。

しかし、画一的な保健指導では、結果を残すことは難しい。そこで、多くはPCにプログラムされた栄養診断ソフトなどを活用することとなる。しかし、これらのソフトは、ある意味では通り一遍のものでしかない。例えば、カロリーが多い、カルシウムが少ないなど、個人の摂取状況まではある程度反映された指導内容が導かれても、結果的に実行が難しい場合が多い。

実行しやすい栄養指導プログラム

それはなぜか?現実的な栄養指導を行い、結果を出している専門家は、皆時間の概念を取り入れている。一食で食事のバランスをとるのは難しいが、3食でバランスをとる。今日一日、野菜が少なければ、その後2~3日で野菜の多い日を心がける・・・など、実行しやすいアドバイスを行なっている。そうした視点を取り入れているプログラムはまだまだ少ないが、ニュートリション・アクトの栄養解析システムSCNS(Self Creative Nutrition System)を使った栄養指導は、体内での栄養素の滞留時間までを考慮に入れ、ダイエットしやすい理想的な代謝の、カラダづくりを可能にする栄養摂取のタイミングを指導をする。

こうした保健指導を行った上で、サプリメントなどを活用するという選択肢は、かなり効果的な手法となる。とはいえ、どのようなサプリメントを用いれば良いのか、悩ましいところだが、海外に目を転じてみれば、メタボリックシンドローム向けの医療用食品が製薬会社を通じて販売されているという事実がある。

厚生労働省認可のトクホのように、国がサプリメントに対して、機能性のお墨付きを与える制度は、海外でも各国にある。特に米国などは、医療保険制度が整っていないため、食品やサプリメントの〝健康強調表示〟を幅広く認め、消費者の自己責任としての疾病予防政策を進めている。

一方でヨーロッパでは北欧をはじめ、ドイツやフランスなど、公的医療保険が整備された国も多いが、その中でも健康強調表示が〝国のお墨付きで〟許されたサプリメントがある。

フランスは特に、国策として代替医療に取り組んでおり、疾病治療のインフォームドコンセントとして、医師が代替医療の情報提供を積極的に行なっている。治療の選択肢を示して、患者自身が納得した治療を受けさせるのだ。

そのフランスで「複合代謝異常用の栄養補助食品」として国から表示を許可されたサプリメントがある。フランスのディーレンラボラトリー社が製造する『リカメン』というサプリメントだ。売上高200億ドルを越え、世界トップ10に常に名を連ねている製薬メーカーメルクは、この『リカメン』を『MOLVAL』という商品名で病院や医療機関に販売している。もちろん「複合代謝異常用の栄養補助食品」としてだ。写真はメルク社のカタログのものだ。

6. MOLVAL en pratique
MOLVAL
Adjuvant des régimes hypolipidémiants
Aliment Diététique
OMEGA 3 + Acides Aminés
MERCK
60 CAPSULES

フランスでは、医薬品・食品に関する広告などの表示は、日本の厚生労働省にあたる、公衆衛生安全庁の医学経済研究・科学情報委員会が一元的に統括している。表示許可は「広告査証」として申請者に交付される。広告査証を交付されているのは、『リカメン』を製造しているディーレンラボラトリー社であるため、メルクだけでなく、『リカメン』を販売する企業であれば、先述した「複合代謝異常用の栄養補助食品」という文章を使うことができる。

この『リカメン』は、日本では、先述した栄養解析システムSCNSを開発したニュートリション・アクトが輸入・販売を行なっている。日本の法律で健康強調表示が認められていないため、効能効果が謳えないが、フランスであれば医療機関で「複合代謝異常用の栄養補助食品」として販売されているものと、全く同一の製品だ。

『リカメン』に許された表示はこれだけではない。「アンジオテンシン転写酵素(ACE)及びP-セレクチン(接着因子)に関して証明された生理活性を有するペプチド、アミノ酸、及びオメガ3系脂肪酸のバランスの取れた摂取を可能にする」や「カロリー過多・ビタミンA、Dの過剰摂取・脂質の過酸化のリスクが無い」などの表示が許されている。つまり、簡単に言うと高血圧や動脈硬化、ダイエットに対しての効果もフランスによって認められているのである。

こうした表示が許可された背景には、フランス国内において、パリ大学医学部を始めとする国立大学や、フランス産業検診センターなどの国立の研究機関、病院で、『リカメン』の大規模なヒト臨床研究が行われてきたからなのだ。

日本の食事で減っている魚を手軽に自然に近い形で摂取

先述したように『リカメン』とは、ペプチド、アミノ酸、及びオメガ3系脂肪酸の混合物であり、その原料はリングフィッシュという魚。メルクの『MOLVAL』という製品名はこの魚に由来する。

メタボリックシンドロームが蔓延する最大の理由は、日本人の食生活の欧米化といわれる。その日本人が本来食べてきた〝魚〟の機能性を、手軽に自然に近い形で摂取できるのが『リカメン』なのである。

国家が「複合代謝異常用の栄養補助食品」というお墨付きを与えるのも当然ともいえる。